

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

オープンキャンパスに行き、素敵なキャンパス内に食堂やカフェテリアなどの施設・設備が充実していて女子らしい上品な雰囲気魅了されました。観光に興味があり、社会システム学科では京都学・観光学について学べると知って観光業のさかんな京都で学びを深めたいと考えたからです。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

学校での授業・テスト・宿題・模試などを無駄にせず、きちんとこなしていく中で実力がついてきました。学校の休み時間や家に帰ってからの隙間時間に単語帳を見るよう心がけたり、日本史は教科書をすみずみまで読んで理解し、そのあと問題を解いて時代ごとの内容を頭の中で整理しました。

〔夏休み〕

知っている英単語の量を増やすことに専念しました。ただ覚えるだけでなく、目で見て、書いて、発音して、印象付けて覚えるように工夫しました。英語の長文を読んでわからない単語が出てきたら、ノートや単語カードにメモして、何度も確認していました。英文法は自分の力で問題を解いて、間違えた問題は解説や参考書を読み理解するということを繰り返していました。私は、国語の評論文や英語の長文を読むことに時間がかかってしまったので、問題を解く時は、時間配分に気を付けていました。

〔2学期～入試直前〕

同志社女子大学の過去問を推薦入試の問題から一般入試の問題まで幅広く解くようにしました。放課後や休日に問題を解き、学校の休み時間や休日を利用して丁寧に見直すようにしていました。初めは過去問を解いて見直し、参考書などで確認という流れで時間をかけてやりましたが、入試が近くなると問題を多く解くことに集中して問題慣れをしていました。そして、なぜ間違えたのかを理解するよう心がけました。また、インターネットでLIVE配信される入試対策講座を活用しました。事前に解いた問題のわからない箇所をLIVE配信で先生が分かりやすく教えてくださるので、とても助かりました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

学校や家で毎日のように問題集などを解いていると、受験勉強が嫌になることもありましたが、全て自分のために、そして受験を乗り越えれば楽しい大学生活が待っていると思って、前向きに捉えて勉強しました。たとえ模試などで出来が悪かったとしても、切り換えて先のこと、本番のことだけを考えて努力しました。健康面では、栄養バランスの取れた食事を心がけ、できるだけ規則正しい生活を送ったことで万全の体調で試験に取り組むことができました。スマートフォンは電源を切って、息抜きで音楽を聴くこと以外、なるべく使わないようにして、入試のためにも上手く時間を利用するようにしていました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験勉強で辛いこと、苦しいことは出てくると思います。でも、頑張ったら頑張った分だけ自信となり、本番も落ち着いて試験に臨むことができるし、地道な努力が実を結ぶはず。受験という貴重な経験が人生の糧になると思うので、後悔しないよう頑張ってください。